

平成26年度第4回

中小企業景況調査報告書

平成27年 1月～ 3月期 報告
平成27年 4月～ 6月期 予測

千葉県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成27年1月～3月期

調査要領

1. 調査対象

(1)対象地域

11 商工会地域 千葉市土気商工会、袖ヶ浦市商工会、鎌ヶ谷市商工会、富津市商工会、南房総市朝夷商工会、匝瑳市商工会、いすみ市商工会、印西市商工会、成田市東商工会、多古町商工会、長柄町商工会

(2)対象企業数 165 企業(11 商工会×15 企業)

(3)回答企業数 164 企業

2. 調査対象期間 平成27年1月～3月を対象とし、調査期間は平成27年2月17日～3月3日である。

3. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問面接調査。

(1)産業別構成

業種	回答企業数	構成比(%)
製造業	28	17.0
建設業	27	16.4
小売業	45	27.3
サービス業	65	39.4
合計	165	100.0

(2)業種別構成

① 建設業

業種	回答企業数	構成比(%)
総合工事業	16	59.3
職別工事業	8	29.6
設備工事業	3	11.1
合計	27	100.0

② 製造業

業 種	回答企業数	構成比 (%)
食料品製造業	8	28.6
家具・装備品製造業	1	3.6
印刷・同関連業	1	3.6
プラスチック製品製造	3	10.7
窯業・土石製品製造業	1	3.6
金属製品製造業	5	17.9
一般機械器具製造業	4	14.3
精密機械器具製造業	1	3.6
その他の製造業	4	14.3
合 計	28	100.0

③ 小売業

業 種	回答企業数	構成比 (%)
各種商品小売業	1	2.2
織物・衣服・身の回り品小売業	6	13.3
飲食料品小売業	17	37.8
自動車・自転車小売業	3	6.7
家具・建具・じゅう器小売業	4	8.9
その他小売業	14	31.1
合 計	45	100.0

④ サービス業

業 種	回答企業数	構成比 (%)
一般飲食店	24	36.9
宿泊業	4	6.2
運送業	2	3.1
自動車整備業	10	15.4
洗濯・理美容業	15	23.1
その他のサービス業	10	15.4
合 計	65	100.0

本報告書中の[DI 値]とあるのは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(好転、上昇)企業割合から、減少(悪化、低下)企業割合を差し引いた値を示すものである。

I. 県下中小企業の景況

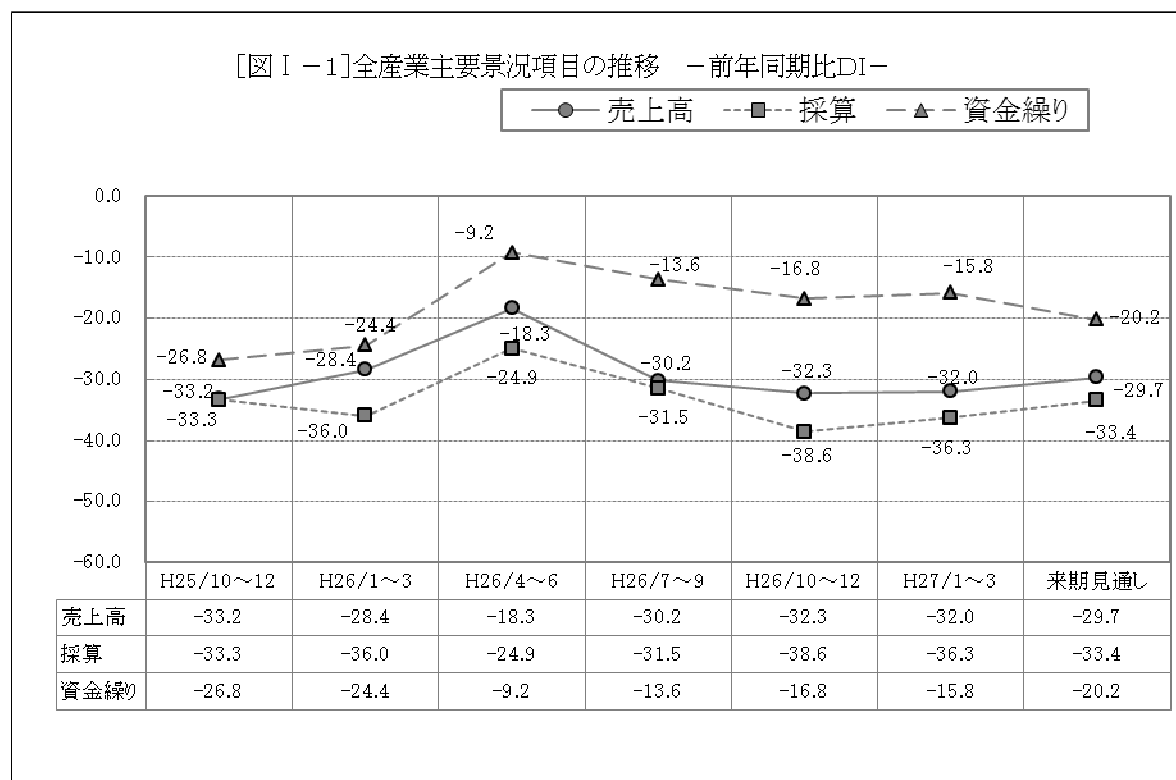
“消費回復傾向も、コスト高が収益を圧迫”

千葉県商工会地区の平成 27 年 1～3 月期中小企業景況調査結果によると、産業全体の景況感は[図 I-1]に示したとおり、今期売上高 DI 値は-32.0、前期（平成 26 年 10～12 月期、-32.3）比で 0.3 ポイント増、同採算 DI 値は-36.3、前期（-38.6）比で 2.3 ポイント増、同資金繰り DI 値は-15.8、前期（-16.8）比で 1.0 ポイント増といずれもマイナス幅は縮小しており、少しずつではあるが、景況感は改善している。

また、前年同期（平成 26 年 1～3 月期）調査と比較してみると、売上高 DI 値は、前年同期（-28.4）比で 3.6 ポイント減、採算 DI 値については、前年同期（-36.0）比で 0.3 ポイント減、いずれもマイナス幅が拡大している。昨年は消費税増税に伴う駆け込み需要があり、その影響が大きいと考える。資金繰り DI 値は、前年同期（-24.4）比で 8.6 ポイント増、マイナス幅が縮小しており、資金繰りは改善している。

今期は、小売業、サービス業については、個人消費が若干回復傾向にあることから、売上高 DI 値は改善している。一方で、円安による原材料等の高騰は継続しており、採算 DI 値については、製造業、小売業で悪化しており、コスト上昇分を転嫁できない収益構造が浮き彫りとなっている。














また、来期（平成 27 年 4～6 月期）については、小売業、サービス業については、個人消費回復の期待感からプラスの見通しとなっているが、製造業、建設業については、全体としては、マイナスの見通しとなっている。



Ⅱ. 各産業の景況

1. 製造業の景況

“円安・コスト高により収益構造が悪化。価格転嫁が課題”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

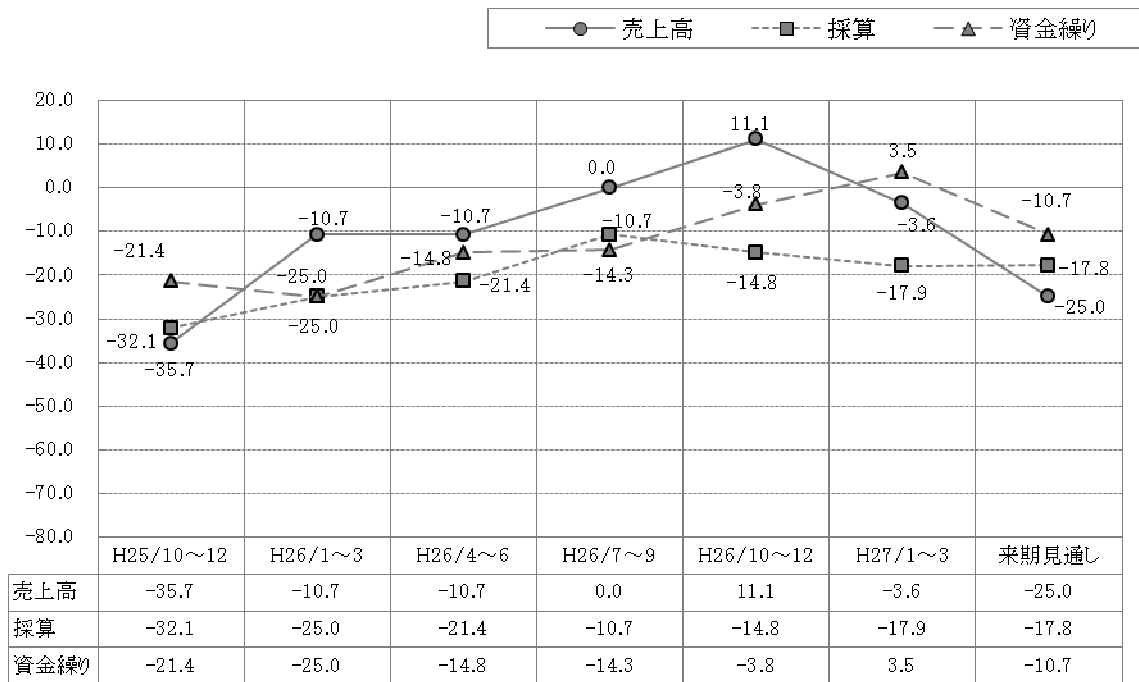
千葉県商工会地区における製造業の景況は、受注残・引合い数ともに、前期に比べ減少しており、売上高 DI 値は-3.6 ポイント、前期と比べると 14.7 ポイント減少している。前年同期比の比較であるため、昨年の消費税増税に伴う駆け込み需要の影響を考慮する必要はあるが、前期比で比較しても悪化している。ただし、設備操業度については維持できていることから、一定量の受注量は確保できていると判断できる。

一方で、原材料高騰の問題は継続しており、単価の低下・上昇難と重なり、収益構造は悪化。コスト上昇分の価格転嫁は緊急の課題となっており、採算 DI 値は 2 期連続で悪化している。なお、資金繰り DI 値については 4 期連続で改善している。

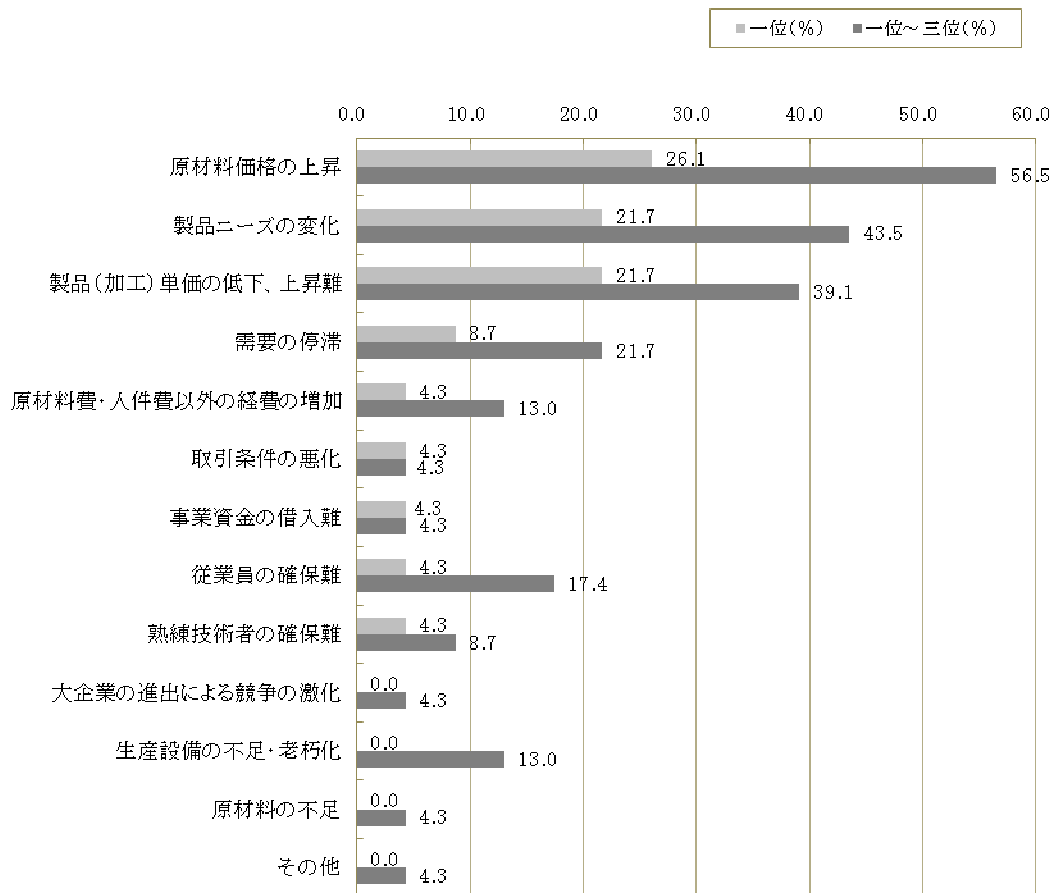
来期については、売上高増加傾向も足踏み状態になったこと、円安・コスト高の傾向は続き、コスト上昇分の価格転嫁ができる見通しのないことから、悲観的な見方が多く、採算 DI 値については変わらず、売上高・資金繰り DI 値については悪化を予測している。

今期は新規設備投資については 3 社が実施。内訳は、工場建物、生産設備、車両・運搬具が各 1 社となっている。また、来期計画では生産設備で 1 社のみが予定されている。

[図II-1] 製造業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI -
















[図II-2] 製造業 経営上の問題点の状況



2. 建設業の景況

“景況感にバラツキあるも、業況の悪化傾向続く”

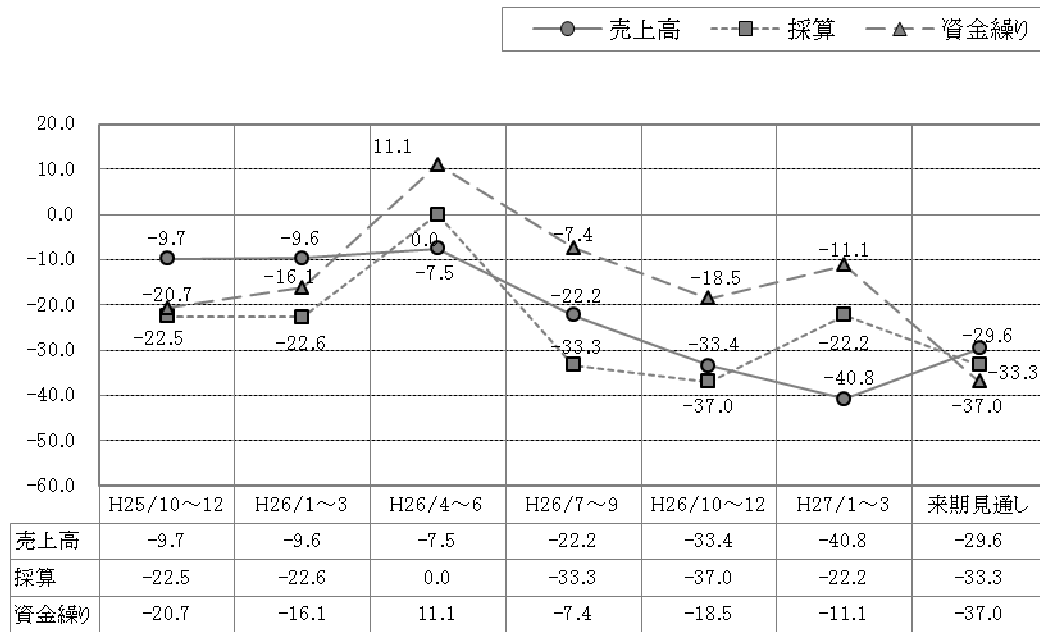
	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

千葉県商工会地区における建設業の景況は、前期同様、民間需要の停滞が続いており、受注額は減少している。このため、売上高 DI 値は-40.8、前期 (-33.4) 比で 7.4 ポイントマイナス幅が拡大し、3 期連続で悪化している。また、採算 DI 値については-22.2 で、前期 (-37.0) 比で 14.8 ポイントマイナス幅が縮小。資金繰り DI 値は-11.1 で、前期 (-18.5) 比で 7.4 ポイントマイナス幅が縮小している。一部ではあるが、受注も安定しており、収益構造も改善できている企業もあり、全体的には、業況は悪化しているが、業種や業態によるバラツキが確認できる。

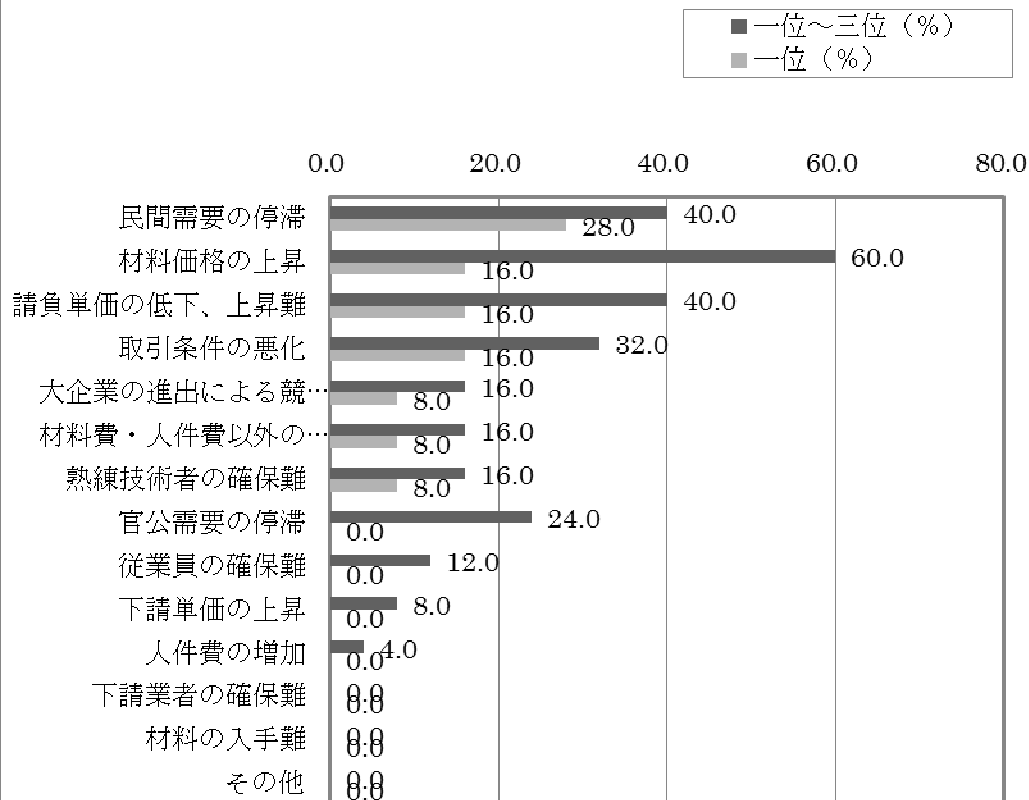
来期についても、売上高 DI 値についてはやや改善する見通しではあるが、引合い数、未消化工事高の減少傾向が継続していることから、厳しい状況は続く見通しである。また、民間需要の停滞以外にも、資材高騰等コスト高や請負単価の上昇難、取引条件の悪化が経営上の大きな問題点となっており、採算面・資金繰り面については、悪化が予測され、注意が必要である。

新規設備投資については、2 社が実施しており、建設機械、車両・運搬具、OA 機器を導入。来期計画は 1 社で、建物と付帯施設の導入を予定している。

[図Ⅱ-3]建設業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















「図表Ⅱ-4」建設業 経営上の問題点の状況



3. 小売業の景況

“消費に回復の兆し”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

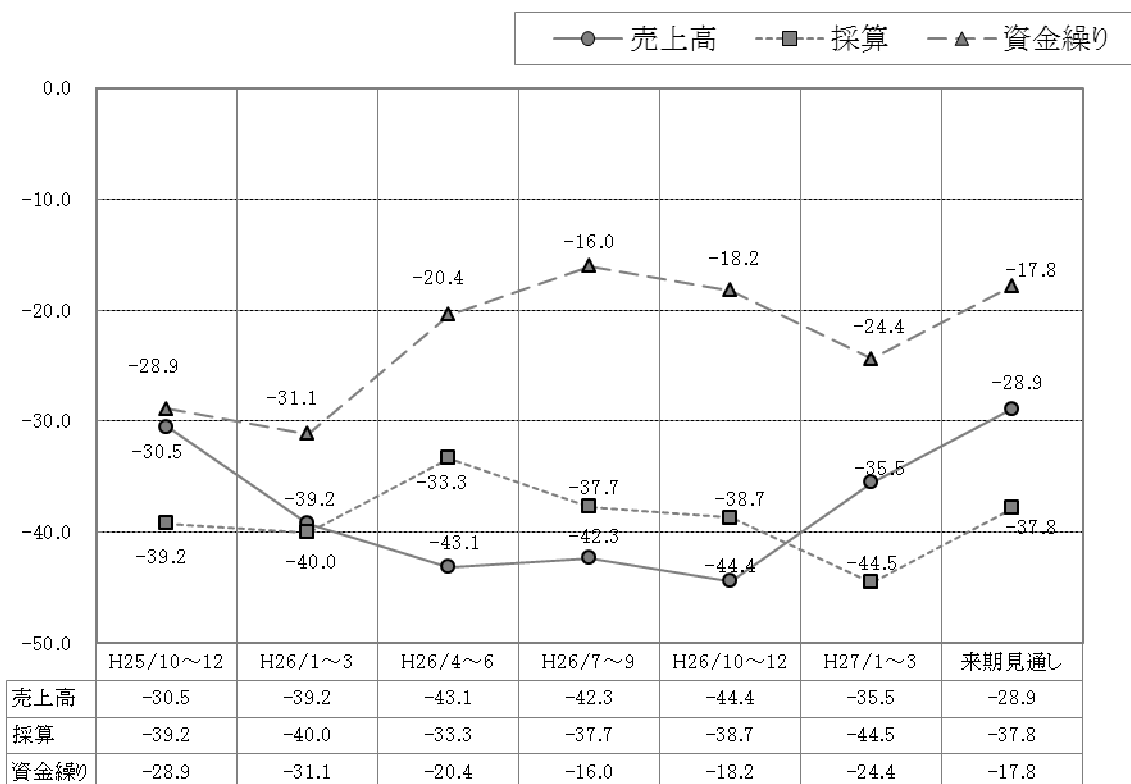
千葉県商工会地区における小売業の景況は、前期に比べると、客数・客単価ともに若干改善しており、売上高 DI 値は-35.5 で、前期 (-44.4) よりも 8.9 ポイントマイナス幅が縮小している。需要の停滞を経営上一番目の問題とする事業者が減っていることから、少しずつではあるが、消費マインドが回復していると判断できる。一方で、原価上昇傾向は続いており、大型店・中型店との競争は厳しさを増していることから、販売単価の低下を招いており、採算 DI 値、資金繰り DI 値については、マイナス幅を拡大している。

来期については、雇用環境が改善され、実質所得も増加することが予想されるため、引き続き、個人消費は回復に向かうことが予測され、全ての DI 値で改善する見通しである。

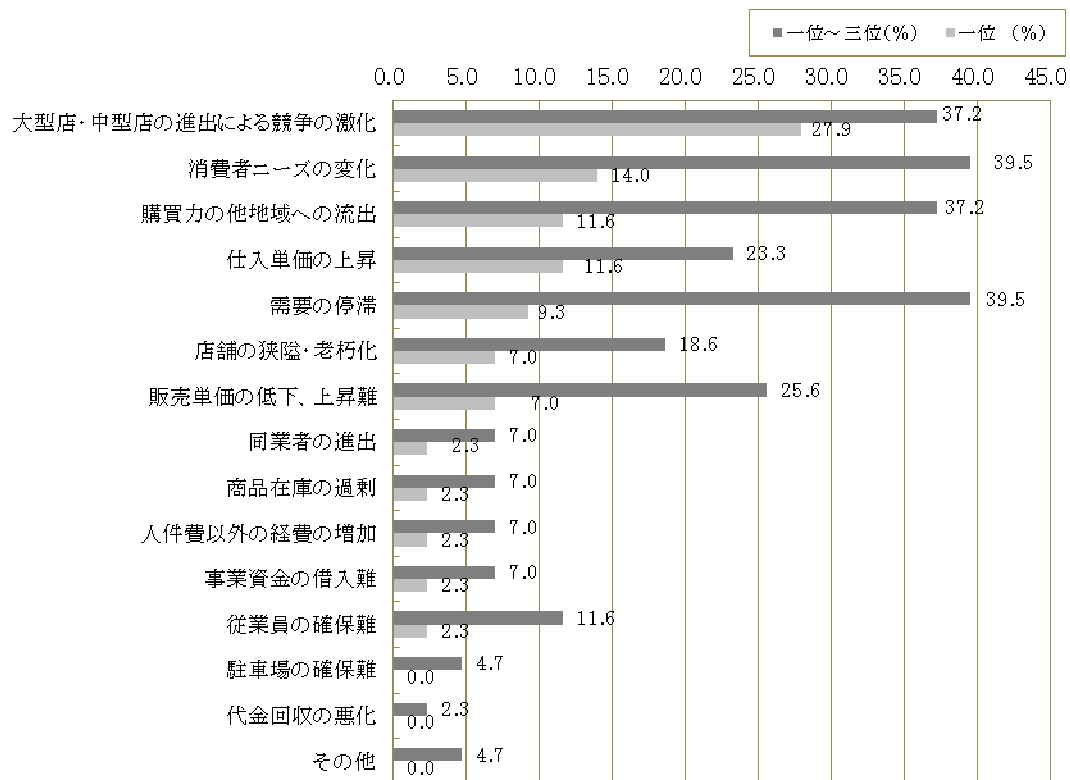
また、大型店・中型店の進出による競争の激化、購買力の他地域への流出、消費者ニーズの変化については、相変わらず多く事業者が問題と感じており、顧客の囲い込みが引き続き課題となっている。

新規設備投資については、4社が実施。店舗、販売設備、OA 機器等を導入している。また、来期計画は5社で、店舗、販売設備、車両・運搬具、付帯施設、OA 機器の導入を予定している。

[図Ⅱ-5]小売業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















[図Ⅱ-6]小売業 経営上の問題点の状況



4. サービス業の景況

“消費回復の兆しも、利幅低下は続く”

	今期の景況	来期の見通し	
			 :DI 値 +30～
売上高			 :DI 値 +10～+30
採算			 :DI 値 +10～-10
資金繰り			 :DI 値 -10～-30
総合			 :DI 値 -30～

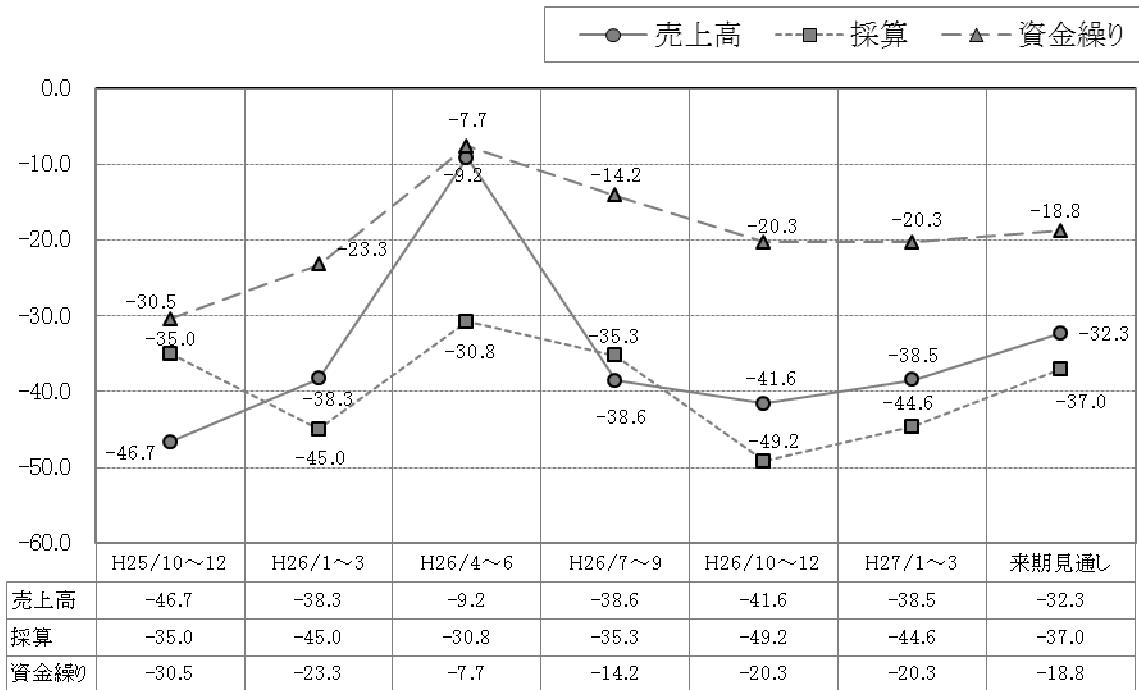
千葉県商工会地区におけるサービス業の景況は、小売業同様、消費マインドについては回復の兆しがあり、利用客数は増えており、売上高 DI 値、採算 DI 値ともにマイナス幅は縮小している。ただし、客単価については、減少傾向にあり、材料等仕入単価の高騰によるコスト高もあり、採算 DI 値は-44.6 で、前期 (-49.2) 比で 4.6 ポイントのマイナス幅縮小に止まっている。

来期については、実質所得増加により、客単価の増加を予測していることから、全ての項目について、若干ではあるが、改善すると予測している。

一方で、需要の停滞を経営上の課題とする事業者は増えており、利用者ニーズの変化、利用料金の低下・上昇難、材料等の仕入単価の上昇を経営上の問題点とする事業者は多い。回復の兆しはあるものの、本格的な回復には、収益構造の見直しや消費者ニーズに対応したサービス開発等経営力向上への取組みが必要である。

なお、新規設備投資は増加しており、5社が実施。サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA 機器等を導入している。また、来期計画は4社で、サービス、車両・運搬具、OA 機器等の導入を予定している。

[図Ⅱ-7]サービス業主要景況項目の推移 ー前年同期比DIー



[図Ⅱ-8]サービス業 経営上の問題点の状況

